

名古屋市立大学にて「慢性疼痛に対する集学的アプローチの実際—心理療法、理学療法をとりいれた多職種実践ワークショップ」を開催しました

- ・主催：名古屋市立大学大学院医学研究科
- ・後援：名古屋市
- ・企画：名古屋市立大学大学院医学研究科 慢性疼痛運営委員会
文部科学省採択 慢性疼痛患者を支える人材育成事業
厚生労働省採択 慢性疼痛診療体制構築モデル事業
- ・日時：平成 31 年 2 月 9 日（土曜日）午後 2 時～午後 6 時
- ・場所：名古屋市立大学病院 病棟・中央診療棟 3 階 大ホール・4 階 第一会議室
- ・参加人数：70 名（グループワーク 30 名）

・内容

【挨拶】名古屋市立大学 学長 郡 健二郎

【講演】

「慢性疼痛治療に対する集学的アプローチ」

名古屋市立大学病院 いたみセンター長/

名古屋市立大学 麻酔科学・集中治療医学 教授 杉浦 健之

「慢性疼痛患者の抑うつ、発達障害の評価（質問紙による評価を中心に）」

名古屋市立大学病院 いたみセンター副センター長/

名古屋市立大学 精神・認知・行動医学 特任助教 近藤 真前

「慢性疼痛患者に対する理学療法」

名古屋市立大学 リハビリテーション技術科 理学療法士 吉戸 菜摘

「慢性疼痛患者に対する認知行動療法（ACT によるアプローチを中心に）」

名古屋市立大学 精神・認知・行動医学 臨床心理士 酒井 美枝

【挨拶】名古屋市病院局 局長 大原 弘隆

【グループワーク】

「架空事例をもとに（精神・運動面を中心に）多角的評価と支援案を検討する」

（本文）

平成 31 年 2 月 9 日（土）、名古屋市立大学病院大ホールにて、名古屋市立大学医学研究科主催「慢性疼痛に対する集学的アプローチの実際—心理療法、理学療法をとりいれた多職種実践ワークショップ」と題し、講演会およびグループワークを開催しました。医療関係者を中心に、講演会には 62 名、グループワークには 30 名の参加がありました。

本イベントは、日本人のうち **15%以上、1,700 万人以上**が罹患しているとされる「慢性疼痛」に焦点を当て、その治療のために名古屋市立大学病院いたみセンターにて実践している

集学的アプローチについて、広く知っていただくために開催致しました。集学的アプローチでは、一つの診療科や一人の医師のみで治療にあたるのではなく、医師、看護師、理学療法士、臨床心理士など、多職種で治療方針を検討します。

最初に郡学長から名古屋市立大学病院における慢性疼痛治療について、および医学研究科における慢性疼痛治療を専門的にできる人材養成プログラムについての説明があり、平成 28 年度以降、慢性疼痛で苦しむ患者を援助する多職種の医療人（医療従事者）の養成に取り組んでいることが紹介されました。

続いて、名古屋市立大学病院いたみセンター長である杉浦教授をはじめ、精神科の近藤特任助教、リハビリテーション技術科の吉戸理学療法士、精神科の酒井臨床心理士の計 4 名から、各職種の視点からの慢性疼痛治療における集学的アプローチの手法や重要性について、講演がありました。講演の参加者には医療従事者が多く、熱心に耳を傾けている様子でした。アンケートにおいては医療従事者の方からの「慢性疼痛についてよく理解できた」という回答や、医師・臨床心理士を志す方からの「非常に勉強になった」といった声をいただきました。講演会終了時には名古屋市病院局の大原局長からも講評をいただき、「非常に重要な課題であることがよくわかった。これからもぜひ力を入れて取り組んでいただきたい。」とのお言葉がありました。

講演会後には希望者によるグループワークが行われ、30 名の医療従事者が参加されました。多職種の医療従事者が集まり架空の症例に対する治療方法を話し合って検討する集学的アプローチを実際に体験してもらい、参加された方々は大変活発に議論を楽しんでいる様子でした。



講演会の様子（講師：近藤特任助教）



講演会の様子（講師：酒井臨床心理士）



グループワークの様子